令和元年度　社会福祉法人くすの木福祉事業会　事業報告

評議員会・理事会開催状況

開催年月日	参加者数(監事含)/議案数		審議内容
	評議員会	理事会	
令和元年5月22日		8名 7件	・定款変更について ・職員就業規則の一部改正について ・公印規程の一部改正について ・平成30年度社会福祉法人くすの木福祉事業会事業報告について ・平成30年度社会福祉事業区分会計決算の認定について ・理事候補および監事候補者の選任について ・定時評議員会の開催について
令和元年6月10日	8名 3件		・定款変更の承認について ・理事及び監事の選任について ・平成30年度社会福祉事業区分会計決算の承認について
令和元年7月11日		8名 2件	・理事候補者および監事候補者の選任について ・評議員会の開催について
令和元年7月16日		7名 2件	・理事候補者および監事候補者の選任について ・評議員会の開催について
令和元年7月24日	8名 1件		・理事及び監事の選任について
		8名 2件	・理事長および常務理事の選定について ・令和元年度社会福祉事業区分会計補正予算について
令和元年10月9日		7名 2件	・職員給与規程の一部改正について ・令和元年度社会福祉事業区分会計補正予算について
令和2年1月22日		8名 4件	・定款の変更について ・役員等報酬規程の制定について ・評議員会の開催について ・令和元年度社会福祉事業区分会計補正予算について
令和2年2月3日	9名 2件		・定款変更の承認について ・役員等報酬規程の承認について
令和2年3月25日		8名 5件	・旅費規程の一部改正について ・評議員選任・解任委員会運営細則の一部改正について ・令和2年度社会福祉法人くすの木福祉事業会事業計画について ・令和2年度社会福祉事業区分会計予算について ・令和元年度社会福祉事業区分会計補正予算について

令和元年度　その他の本部事業

●定款変更申請

・役員報酬規程の検討

●諸規程検討

・法人諸規程検討及び労務相談（月1回開催　大山社会保険労務士来寮）

・職員就業規則の検討（ハラスメントの防止条項追加）

・職員給与規程の検討（特定処遇改善加算届出）

●広報活動

・法人ホームページの更新

●職員研修

・法人職員障害者虐待防止研修会

①強度行動障害状態の方の特性と基礎知識・支援方法　：　豊田市福祉事業団　第二ひまわり　倉嶋昌之氏

②現場の支援者として意識しておくべきこと　：　豊明福祉会　メイツ　大谷真弘氏

・法人職員研修

①パワハラ・セクハラ研修　：　AIG損害保険（株）　リスクマネジメントサービスユニット　マネージャー　相田彩子

②感染症対策講習　：　蒲郡市民病院　感染管理認定看護師　戸澤真由美看護師

③個人情報保護研修　：　坂田法律事務所　鈴木典子弁護士

・AED及び心肺蘇生法講習（年2回）　：　日赤愛知支部　村崎正明指導員

※2回目については新型コロナウイルスの蔓延に伴い講師派遣中止のため未実施

・都道府県セミナー　：　愛知県社協／全国経営協共催（理事長、河合施設長参加）

・苦情解決制度推進研修会　：　愛知県社協（第三者委員参加）

●蒲郡市地域福祉計画策定委員会、グループインタビュー（理事長出席）

●JKA補助事業実地調査

●法人職員採用試験実施（令和元年6月10日、8月7日、8月21日、11月18日、令和2年2月26日）

令和元年度　障害者支援施設つつじ寮事業報告

1. 職員構成

総数　45名 [( )は非常勤再掲]

施 設 長　1	事 務 員 2(1)	サービス管理責任者　1	生活支援員　31(11)
看 護 師　2(1)	栄 養 士　1	調 理 員　6(6)	嘱 託 医　1(1)

2. 利用者の状況【定員:50 名】

〇療育手帳判定

	A 判定	B 判定	C 判定	計
男性	26 名	0 名	0 名	26 名
女性	19 名	5 名	0 名	24 名

〇障害支援区分

	区分3	区分4	区分5	区分6
男性	0 名	7 名	9 名	10 名
女性	1 名	4 名	7 名	12 名
計	1名	11 名	16 名	22 名

〇在籍および入退所状況

施設入所者:令和2年3月31日現在50名

退所者 2 名　　入所者　男性 2 名

※生活介護通所契約者1名 （障害支援区分5）

3. 支援状況

高齢・重度化に伴い、利用者2人に対して職員１人の職員配置にして、マンパワーによる利用者支援の充実を図った。

それぞれの、利用者の想い(ニーズ)に寄り添い、本人が楽しみながら生きがいを持って生活ができるよう個別支援計画、個別支援ガイドを作成し、目標が達成できるように支援を行った。

職員間のコミュニケーションを深め意思疎通を図るため、男・女性支援員ミーティングを月に各 1 回開催し、タイムリーに支援内容や職員が困っていること等を検討した結果、統一した支援を提供することができた。また男女棟毎に、ケース研究に取り組み支援の質の向上に努めた。

(1)生活支援

生活面では、食事・排泄・入浴等必要不可欠な支援を個別に支援ガイドを作成し、本人の状態、状況に合わせて支援を行った。

(2)日中活動支援

＜下請け作業班 20 名(男性 10 名・女性 10 名)＞

今年度も、昨年並みの実績を上げることが出来た。S 社が昨年より大幅に受注が落ち込んだが、W 事業者の仕事が定期的にあり、安定して作業を行うことが出来た事と、M 社と新たに取引を始めたことが要因である。

作業に関しては、各々の利用者の能力に合わせて作業工程を工夫し、どの利用者も作業に参加できるように努めた。

作業を頑張ったことで、利用者も給料を受け取ることを楽しみにしている。給料の日は作業に身が入る利用者が多くいる。また作業が忙しくない時に買い物に出かけ、買ってきたお菓子を皆で食べるなど、息抜きの日を設ける事で作業意欲向上に努めた。

また、作業が落ち着いている日には、利用者と一緒に施設の周りを散歩したり、ひまわり班に混ざり一緒に運動を行うなど、体力維持にも努めた。

＜ひまわり班　30 名(男性 15 名・女性 15 名)＞

今年度より「心身機能の向上」と「病気・老年症候群の予防」のため、運動療法を通じて高齢化が進む利用者の身体の強化・リフレッシュ・認知機能の向上を図り、同時に自信と安定を図ることで、生活の楽しみとしての「運動」を習慣づけることを目標に設定した。

3つのグループで活動を実施し、各グループにリーダーを配置した。リーダーを中心にグループでの活動内容をより鮮明にし、利用者一人ひとりに合わせた内容を提供できた。職員それぞれが活動のリーダーとして責任を持てるように、当日の活動を仕切ることも実施していきながら、職員のスキルアップを図った。

個別支援目標に沿って、日中活動時間内で、プログラムの流れをつくり、それに沿って行うことができた。個別のプログラム、全体で行う活動、各班での活動とそれぞれの充実に重点をおいた。利用者がより多くの時間、運動を実施し、楽しめるような日中活動を試行錯誤した。各利用者に、散歩、レク、リラクゼーション、軽作業などの選択肢を職員が1人ひとりに提案することができた。

個別支援目標に関しては、日中活動の支援ガイドの見直しを実施し、ガイドに沿って、プログラムを職員が確実に把握し実践する事ができた。

運動面では多くの時間を散歩に出かけた。主にマイクロバスで、近隣の公園に出向き、公園内での散歩を実施した。

身体機能の維持に関しては、年々、利用者の高齢化が問題となってきている。ケアグループでは高齢の利用者が多いため、一人ひとりに合わせた運動プログラムを手厚く提供し充実を図ることができた。身体機能が低下してきた利用者に関しては、その都度、本人の調子を職員間で確認、把握し、本人が安心安全に取り組めるように進めることが出来た。

＜TAP活動＞

セラピー活動（音楽療法・読み聞かせ）、アート活動（絵画教室・木工教室）、フィジカル活動

（フライングディスク）を毎月実施した。絵画では、ひとつの作品に時間をかけて取り組んでいる利用者もいた。完成した作品は絵画展に出品した。フライングディスクは5～7月を設定したが、天候や猛暑のため数回の実施にとどまった。

どの活動も各人の希望を重視し、利用者の楽しみや生き甲斐の持てる充実した活動となり、参加利用者は毎回意欲的で笑顔と、笑いに満ちていた。

(3) 自立支援

①生活支援・・・金銭感覚取得、身辺の自立

地元の理美容院に出かけ、金銭使用に慣れたり、公共交通機関を利用してマナーを学ぶ等、各自のスキルアップへの取組みを実施した。買い物や洗濯など個々に合わせた個別支援計画を作成し、生活する上で自立に必要な支援を行った。

②地域生活、就労に向けた支援・・・該当者なし。

(4) 余暇活動

生活に潤いを持たせ、ストレスの解消を図るため休日や平日の自由時間を有意義に過ごせるようにした。具体例として夕食後の余暇活動で、ぬりえ、カラオケ、軽運動など充実した活動を毎日実施した。

また、月1回土曜日の午前中に講師を招いた生け花教室、休日の午後に「コーヒータイム」を実施した。

4. 健康管理

年2回保健・給食委員会を開き、それぞれの課題解決や充実を図ると共に健康維持に努めた。

(1) 定期健康診断（5月13日・10月21日）

聴打診・血圧測定・尿検査・血液検査・検便
胸部レントゲン・腹囲測定（春のみ）
心電図・大腸がん検査（秋のみ）

(2) 乳ガン検診（7月/9月）・子宮ガン検診（11月）

(3) 通院状況

定期通院については、内科、歯科、眼科、外科、整形外科、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科、心療科、脳外科、婦人科の通院を行った。また、歯科については蒲郡市障がい者歯科診療所の通院を行い、治療の難しい利用者が利用した。また季節的に、水虫、感冒、花粉症による通院を行った。

(4) 入院状況（延人数）

15 日未満・・・耳鼻科 1 名　内科 3 名

15 日以上～1 か月未満・・・なし

1 か月以上 3 か月未満・・・精神科 2 名

3 か月以上・・・なし

(5) 寮内処置状況

（水 虫 対 策）・・・皮膚科に通院し、処方された外用薬を塗る治療を行った。また常に足を清潔にするように支援を行った。

（怪我の処置）・・・擦り傷、切り傷、軽い外傷の処置を行った。

（感染症対策）・・・日ごろの予防として、手洗い、うがい他、体力作りに心がけた。
毎日の体温測定（冬期時 1 日 2 回測定）を行い、早期発見に努めた。
薬剤を使用した寮内消毒及び清掃を念入りに行った。
インフルエンザワクチン接種については、11 月実施。
1 月から 3 月の感染症流行時には予防として外出（マスク着用）、面会を控える対応を行った。
国内で新型コロナウイルス感染症が拡大し、蒲郡市内においても感染者が発生した。そのため 3 月初旬より短期入所、日中一時支援の受け入れを休止した。また新型コロナウイルス感染防止のため、外出等の自粛を行った。

5. 食　事

利用者は給食への関心が高く、食事の時間をとても楽しみにしている。嗜好調査を行い、結果を献立に反映させたり、随時利用者のリクエストを聞くなど、食事に関する希望を献立に取り入れた。毎週木曜日には選択メニューを実施し、選択肢を設け選択する自由を尊重した。また季節の行事に合わせた献立にし、食事をより楽しんでもらえるように努めた。

食器等は、朝食と昼食で同じ食器を使用しないように、食器を選ぶ際には、料理とのバランスを考えるなど工夫をした。また彩り良い献立にし、見た目にもおいしく感じられるよう努めた。

健康管理上の配慮が必要な方については、栄養士、調理員、看護師、支援員が協議して、以下の様に対応した。

・肥　満　者・・・・・・・肥満食
・咀嚼能力の低い者・・・・きざみ食
・嚥下能力の低い者・・・・とろみ付け、ミキサー食
・血圧の高い者・・・・・・塩分を控える

6. 行　事

5 月 2日～ 6日	春期家庭療育
6 月14日	ふれあい旅行(日帰り:静岡県御前崎方面利用者22名参加)
8 月10日～14日	夏期家庭療育
9 月 1日	あしあとの会
9 月26日～27日	ふれあい旅行(一泊:西伊豆温泉方面利用者22名参加)
10月14日	3施設合同レク(御津町体育館)
11月 9日	第28回地域交流くすの木福祉まつり
12月20日	蒲郡市歳末慰問
12月20日	クリスマス会
12月23日	もちつき会(大塚保育園児を招待)
12月29日～1月4日	冬期家庭療育

7. 職員研修

○施設内研修

9 月に発生した誤嚥死亡事故の再発防止として、10 月の職員会議内でKYT(危険予知トレーニング)研修を実施した。

また、外部研修で学んだ「背部叩打法とハイムリック法」についても研修報告を行った。

○法人職員研修

8月にセクハラ・パワハラ研修を外部講師を招き、11月には蒲郡市民病院感染管理認定看護師を講師に迎え、感染症対策研修を行った

また 2 月に個人情報保護研修について、法律の専門家の顧問弁護士より学んだ。

救急救命講習は、年 2 回(7月・3月)実施し、AED の使い方及び心肺蘇生法など実技講習を受ける予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策により、3月は中止となる。

全職員を対象に外部講師を招き、強度行動障害の基礎知識と支援方法について(9月)と福祉施設における権利擁護の取り組みの実践報告(1月)について学んだ。

○施設外研修(愛知県社会福祉協議会、知的障害者福祉協会等主催研修)

社会福祉行政や制度、虐待防止と権利擁護、キャリアアップ研修、苦情解決受付研修、などに参加し職員の資質、知識向上につながった。

なお、強度行動障害養成研修(基礎・実践)については、3月に受講予定であったが、新型コロナウイルス感染症対策により中止となり、受講できなかった。

8. 共同生活援助事業所のバックアップ

3つの事業所として計 7 ヶ所(ひめはる・あざれあ・ふれんず・かるみあ・さつき荘・あいりす・はちまん)の住居の緊急時における対応等をサービス管理責任者、世話人等と連携を取り合い、つつじ寮がバックアップした。

9. その他

(1) レクリエーション・・・グループごとに随時実施。外食を兼ねた買い物、公園散策、プロ野戦、動物園・水族館見学、道の駅めぐり、いちご狩り等を実施した。

(2) 防災訓練(毎月1回実施)・・・日中のみならず、職員の少ない夜間を想定し、非常時の対応ができる様に訓練した。10 月に法人災害対策本部設置訓練・福祉避難所設置訓練を行った。

(3) 環境整備(毎月1回実施)・・・寮内整備及び美化に努めた。

(4) 地域活動・・・ふるさと博推進委員会(地元活動団体)の学習資源整備(年4回)、トイレ清掃管理(当番月:年 3 回)に取り組んだ。
クリーンキャンペーン参加(5 月 26 日、9月29日)

(5) 理髪・・・隔月1回(年 6 回)実施した。

(6) 面会日と保護者会 ・・・毎月第一日曜日に実施した。

(7) ボランティアの受け入れ・・・地域交流行事や作業奉仕、清掃活動等に暖かいご支援、ご協力を頂いた。(令和元年度実績 延べ 310 名)

(8) 苦情解決事業及び虐待防止・・・社会福祉法の規定に基づき、福祉サービスに関する苦情窓口等について啓発すると共に利用者一人ひとりの面談に努めた。(令和元年度件数0件)
虐待防止については年 2 回、講師を招き研修を行った。
月1回虐待防止委員会を開催した。
(令和元年度件数 1 件)

(9) 福祉サービス第三者評価・・・令和元年度 12 月受審。

(10) 短期入所(宿泊を伴うショートステイ)事業・・・令和元年度利用実績 延べ 131 名・565 日

(11) 日中一時支援(日帰りショートステイ)事業・・・令和元年度利用実績 延べ 116 名・371 日

令和元年度　サポートくすの木　事業報告

１．職員構成

(R2.3.31 現在)

職　　種	常　勤	非常勤	計
管　理　者　(施設長)	1		1
サービス管理責任者	1		1
生 活 支 援 員	6(1)	10	16(1)
看 護 職 員		1	1
事　務　員	1		1
調　理　員		2	2
嘱　託　医		1	1
計	9(1)	14	23(1)

※(　)内は兼務

２．利用者の状況

(1)障害支援区分状況　(R2.3.31 現在)

	区分１	区分２	区分３	区分４	区分５	区分６	計
男　性	0	0	6	14	12	5	37
女　性	0	0	4	6	2	3	15
計	0	0	10	20	14	8	52

(2)月別 利用契約状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
蒲郡市	29	29	28	28	28	28	28	28	28	28	27	27
豊川市	24	24	24	24	24	24	24	24	23	23	23	23
豊橋市	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	55	55	54	54	54	54	54	54	53	53	52	52

(3)月別 利用数状況（定員５５名）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
利用者数	55	55	54	54	54	54	54	54	53	53	52	52
利用率 (%) (対 定員)	91.0	92.6	94.7	94.4	93.7	94.7	93.7	91.8	93.4	92.9	93.4	92.5
一日あたり平均利用人数	50.0	51.0	51.1	51.0	50.6	51.2	50.6	49.6	49.5	49.3	48.6	48.1

３．全体を通して

利用実績は、一日平均 50 人、対定員の利用率 91％となっており昨年度より 1 名減となった。皆勤賞（一日も休まずに登所した利用者）は 16 名で昨年度に対し 5 名増したが、退所者は 3 名となった。

生産活動は、委託作業部門・木工部門・菓子部門を昨年度より継続し、利用者一人ひとりに適した作業環境を整備し、働く楽しみや喜び充実感が持てるように支援した。元気班（生活介護活動）においては、運動器具や室内環境の向上のため観葉植物を設置するなど環境整備に努めた。また、一人ひとりの課題やニーズに応じた支援、排泄等の介助、体力維持の向上に努めると共に散歩等を積極的に取り入れ、情緒の安定と体力の低下防止に繋がる支援をした。

生産活動実績は、第１課、第２課とも昨年度を上回った。特に菓子部門は、大口注文があり昨年対比 119％となった。

４．生産活動

第１課は、委託作業部門、第２課は、木工部門・菓子部門で実施した。

委託作業部門においては、主に 3 社から作業を請け負う、受注量は昨年と同程度あり繁忙期には、一人ひとりの作業量が大量に増えたが大きなトラブルもなく乗り越えられた。多岐にわたる作業の中、個々の能力や適性に合わせた作業提供に心掛けたことで利用者が責任を持って作業に取り組むことができたと感じた。また、今までできなかった事にチャレンジするなど、できる事を増やしていけるよう支援をした。

作業環境の向上を図る為にハンドパレットトラックの導入や作業室のレイアウトの見直しも行った。

第２課木工部門では、正職員の配置換えにより環境が大きく変わる中、長年在籍している非常勤職員及び他の課の協力体制で昨年以上の実績を上げることができた。製品においては、常にマーケットを意識し、購買者のニーズに対応することを心掛け、マグネット製品のバリエーションを広げ、雛飾りやハロウィーン等の季節製品の開発も精力的に行った。販売では、菓子部門と搬入・搬出・販売・納品等を連携し円滑に遂行した。

菓子部門では、5 月、6 月に大口の注文が重なり、スケジュールの組み立てを見直し、終わりの見えない注文の数にイライラする利用者の姿も見えましたが、集中してやりきることができ、昨年度実績を大きく上回った。

毎月の企業店舗等の販売では、お菓子を買ってくれたお客様に大きな声で「ありがとうございました。またお越しくださいませ。」と笑顔で挨拶する姿に、利用者のやる気、成長を実感できた。

５．生活介護活動

最初に取り組んだのは、活動室内の環境整備であった。利用者各個人用の机、椅子を購入したことによりトイレへの動線や人間関係を配慮した設置が容易にできたことと共に職員と対面しながらのコミュニケーションや生産活動支援ができたことで集中力、生産力が向上した。また、車椅子利用者に配慮した高床式の畳スペースを設置したことで、一日中車椅子の状態から解放された。

室内に大きな観葉植物を設置したことにより、精神的に安定する空間にすることもできた。
運動器具については、ウオーキングマシーン、乗馬等の電気式運動器具及び階段昇降運動ができる台を制作し設置した。
日中活動のプログラムにおいては、見直しを行いました。統一されていなかった手洗い、歯磨きの支援時間を決め等日常生活の基本的な部分をピックアップし、支援時間を明確にした。

６．生活・余暇支援

基本的生活習慣については、適時支援をして習慣になるように実施した。
また、余暇活動については、自治会組織を尊重し、生活、企画部門等において利用者の意見が反映されるように努めると共に、旅行やレクリェーション等の充実を図った。

７．保健支援

個々の健康管理に配慮することを第一に掲げ、個別支援計画に基づき、障害や疾病に合わせた支援を行った。
毎月１回、嘱託医による個別面談・医療相談を実施し、11 月には希望者に対してインフルエンザ予防接種を実施した。
２月、新型コロナウイルス感染症対策として、マスクの着用、検温、手洗いを周知した。3 月には、マスクを配布し、不要不急の外出を控えるよう伝えた。
7 月、法人職員救急法講習会に参加し、AED 操作や応急手当、心肺蘇生法に関する講習を受けた。3 月にも予定していたが、新型コロナウイルス感染症により中止となった。

８．環境整備

毎月１回実施
日常の掃除では行き届かない部分や掃除しきれない部分を中心に実施し、施設内の美化に努めた。

９．日中一時支援

令和元年度利用実績　　契約者数　０名

10．苦情解決

社会福祉法第８２条の規定及び局長通知「社会福祉事業の経営者による福祉サースに関する苦情解決の仕組みの指針について」により、福祉サービスに関する苦情解決事業を実施した。　（令和元度実績　　１件（解決済み））

11. 虐待防止

法人での虐待防止研修が２回あり、いずれかに全職員が参加した。また、各個人が３カ月に１回の自己点検表を提出し、それぞれが日々の支援の振り返りをする事で、意識の維持・向上を図った。点検表は集計を取り、虐待防止委員会（メンバー：役職者・各課 1～2 名　開催：3 か月 1 回）で内容を検討後、結果を全職員に配布した。

12. 職員研修

職員の資質及び専門性の向上、意識改革を図るため、下記の研修会や法人内・施設内の虐待防止研修及び法人内救急法研修等に参加した。

・全国知的障害福祉関係施設長会議
・全国知的障害福祉関係職員研究大会
・東海地区知的障害施設職員研究協議会
・愛知県知的障害関係職員等研究大会
・キャリアパス対応生涯研修課程
・東三河社会就労センター研修会
・社会福祉法人会計事務講座
・事業会後援会主催講演会　　等
・権利擁護セミナー
・中堅研修

13. 防災訓練

令和元年度実施回数　４回

実施内容　　地震及び火災による護身・避難並びに通報訓練 津波警報による避難訓練、消火器訓練等

法人での合同防災訓練については、広域の大規模災害（地震）発生を想定しての姉妹施設間の伝達訓練、福祉避難所立ち上げ訓練に参加した。

14. 行事実績

別紙１のとおり

15. 生産活動実績

別紙２のとおり

別紙１

令和元年度　行事実施報告

月	日	内　　容
4	２～５	花見（各作業課単位：豊川市内・蒲郡市内）
5	２０	定期健診
6	１４ ２１ ２７ ２８	選択レク（映画鑑賞・食事） 選択レク（１００円ショップ巡りと食べ放題） 選択レク（カラオケ・買い物） 賞与支給日
8	１０ １１	くすの木盆踊り会 利用者夏期休暇　（～１５日）
9	１９	親子一泊旅行（横浜方面～２０日）
１０	１４	三施設合同レクリェーション
１１	9 ２０	地域交流くすの木福祉まつり 定期健診
１２	１３ ２０ ２８ ２９	賞与支給日 クリスマス会 大掃除 利用者冬期休暇　（１／５）
2	7 3 ２１ ２８	選択レク（食べ放題と１００円ショップ巡り） 節分行事 選択レク（ゲーム・本・１００円均一　買い物コース） 選択レク（ボウリング＆アピタ蒲郡店）
3	２５ ３０	賞与支給日 桜・懇親会
毎　　月		工賃支給 嘱託医来診（医療相談） 環境整備

別紙２

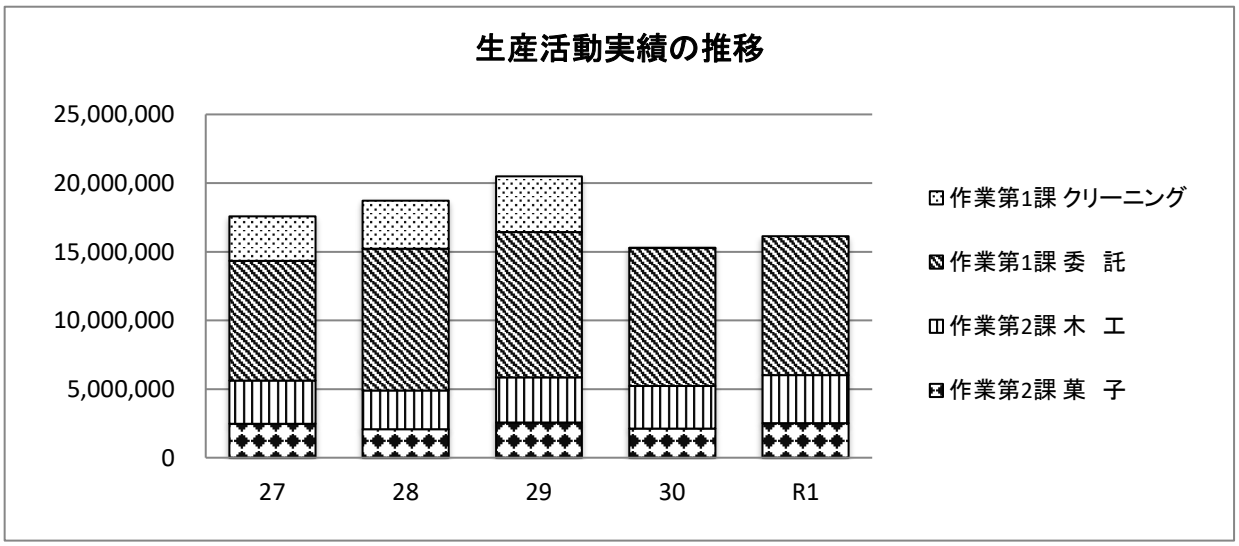
令和元年度　生産活動実績

(1) 年間課別実績

月		作業第1課	作業第2課		その他	計	経　費	純利益	工　賃
		委　託	木　工	菓　子					
4		0	106,500	68,830		175,330	222,964	-47,634	699,800
5		686,158	273,260	337,260		1,296,678	417,318	879,360	700,200
6		755,368	279,750	134,820		1,169,938	594,481	575,457	1,400,200
7		802,449	274,700	548,550		1,625,699	256,722	1,368,977	700,100
8		1,083,812	267,440	146,720		1,497,972	438,863	1,059,109	700,500
9		787,987	377,514	88,660		1,254,161	234,702	1,019,459	700,000
10		831,408	357,990	312,140		1,501,538	484,143	1,017,395	699,700
11		865,444	582,070	368,000		1,815,514	370,579	1,444,935	699,700
12		820,756	323,150	98,464		1,242,370	347,643	894,727	1,740,600
1		831,406	162,150	122,100		1,115,656	189,301	926,355	700,300
2		924,077	272,070	133,240		1,329,387	316,565	1,012,822	699,900
3		874,440	113,640	119,810		1,107,890	588,971	518,919	1,047,000
決算見込		863,168	85,550	49,680		998,398	790,397	208,001	416,400
合　計	0	10,126,473	3,475,784	2,528,274	0	16,130,531	5,252,649	10,877,882	10,904,400
月平均	0	843,873	289,649	210,690	0	1,344,211	437,721	906,490	908,700

(2) 年度別実績

(年度)	作業第1課		作業第2課		その他	計	工賃総額	工賃平均 (一人/年)	工賃平均 (一人/月)
	クリーニング	委　託	木　工	菓　子					
27	3,249,978	8,719,663	3,134,855	2,472,727	2,770	17,579,993	11,668,600	136,261	11,355
28	3,480,284	10,332,857	2,832,669	2,064,216	0	18,710,026	12,817,300	201,183	16,765
29	4,047,273	10,582,139	3,295,161	2,557,431	0	20,482,004	15,116,800	256,216	21,351
30	17,660	10,030,348	3,111,520	2,114,910	0	15,274,438	10,693,400	194,425	16,202
R1		10,126,473	3,475,784	2,528,274	0	16,130,531	10,904,400	198,262	16,522



令和元年度　わくわくワーク大塚　事業報告

１．職員構成

総数　２２名　　（内非常勤）

施設長　１	サービス管理責任者１	生活支援員１５（９） （１名看護師兼務）	事務員１	
看護師１（１）（生活支援員兼務）		調理員２（２）	運転手１（１）	嘱託医１（１）

２．利用者の状況

（１）　月別利用契約者状況

市町村＼月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
蒲郡市	46	46	46	46	46	45	45	45	45	45	45	45
豊川市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
安城市	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	48	48	48	48	48	47	47	47	47	47	47	47

（２）　各種関係手帳所持状況　　（　）は重複者

性別＼種別	療育手帳				身体障害者手帳						計
	A級	B級	C級	なし	1級	2級	3級	4級	5級	6級	
男	２２	4	0	0				(1)			２６
女	１４	7	0	0	(1)	(1)	(2)	(1)	(1)		２１
計	３６	１１	0	0	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)		４７

（３）　障害支援区分

性別＼項目	6	5	4	3	2	計
男	2	7	１１	6	0	２６
女	2	2	7	１０	0	２１
計	4	9	１８	１６	0	４７

（４）　日常生活自立状況

領域＼状況	で　き　る		声かけにより可能		介助により可能		できない		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
食　　事	２２	１６	４	１	０	４	０	０	４７
歯磨き・洗面	１９	１４	２	２	３	４	２	１	４７
排泄（生理）	２１	１４	４	２(2)	１	２(2)	０	３(3)	４７
着　脱　衣	２２	１６	４	０	０	２	０	３	４７
掃除（担当箇所）	１２	１２	７	３	０	２	７	４	４７

（５）　月別利用者数状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定　員	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
月平均利用者数	44.8	44.6	42.2	44.8	44.7	43.5	44.4	43.8	43.9	43.1	43.3	44.1

平均月利用者数：44.0

３．日中活動支援

（１）自主製品科作業実績

①はじめに

今年度は、利用者２１名、職員６名（内非常勤職員３名）という体制で引き続きスタートした。作業内容は、菌床しいたけ栽培、委託作業、縫製作業を継続している。

それぞれの部門でより一層の作業の充実を目指して取り組んだ。また利用者一人一人の作業能力、個々に適応した作業を考え、委託作業科と協調して、一人一人に合った作業を提供するように心掛けた。

しいたけ栽培が不調であったが、しいたけ作業、委託作業や縫製作業いずれも、昨年度以上の実績を上げることができた。

②縫製部門

今年度は、様々な要因が重なり、例年より高い実績を上げることができた多忙でありながらも喜びの多い一年であった。

各々の利用者の能力により組みつけ、縫製、袋入れ等を任せながら、今年度も昨年度と同様、スツール作成を中心にその端切れを利用してのマスク作成、傘カバーの在庫の出荷、常設店に置くべく三河木綿を使った商品およびアクリルタワシを主な商品として作成・販

売をしてきた。常設店においては市役所福祉課、クラフトセンター、テーマパーク土産店及び豊川市の酒店に商品をおかさせていただいてきた。しかし商品作成が間に合わず、思うように商品を提供することができないことも多く、今年度は豊川市の酒店での販売は取り止めにさせていただいた。（これまでのご厚意に感謝いたします。）

他に奇しくも９月に我々の商品を常設店で見かけたお客様が、縫製商品作成を依頼してくることが２件ほどあった。１件は個人でターバン作成・販売をしているお客様からターバンの縫製の通年での依頼、もう１件は豊橋市の県立高等学校様からの依頼で、ちょうど文化祭のテーマで「遠信と三河の特産品」を取り上げるが、生徒たちが企画した三河木綿を使用した電卓ケースを販売したいので、作成してほしいとの依頼であった。当日の文化祭では他の商品、三河木綿のブックマークやマスクなども販売していただき、大きく実績に貢献することができた。

また年を越し、新型コロナウイルスの流行により、市場では使い捨てマスクが品薄になり、洗って使える布マスクが一躍脚光を浴びるようになった。当事業所も増産に次ぐ増産で注文も途切れることなく、保護者職員他、常設店でも飛ぶように販売でき、例年５００枚くらいの作成数が今年度は１，５００枚と３倍に作成数を上げることができた。いずれの商品も作業時間内で作成することは難しかったが、利用者へ任せられる工程は任せて次々に来る注文をこなしていくことができた。そのため他の商品とあわせトータルとして６８０，５５３円の売り上げ、昨年度より２３２，１２３円の増となった。一つの大きな目標として平均して月５万円の売り上げを目標にしてきたが、これを超えることができ、努力が報われた嬉しい一年であった。

③委託作業

今年度は（株）W様より小学校教材のフェルト裁断作業を請け負い７年目、練習布セットを請け負い２年目の年であった。昨年度は、練習布セット作業において、ボタンの入れ忘れ等の不良が大量に出て委託作業主様に多大な迷惑をかけてしまった。そのため今年度はきちんと部品が入っているか、職員の検品を２回にして不良をなくすべく努めた１年であった。

実績については、委託作業主が親企業より請け負った計画的な受注に沿った数量の実績であるが、少子化のためか昨年度は１，２８４，７４２円、今年度は１，１６８，１８４円と１１６，５５８円減となった。

現時点では、練習布セットの不良の報告はあがってきていないが、２回目の検品でボタンの入れ忘れやチラシの向きのミスなど見つけることも当初はあった。しかし日が経つにつれ、１回目の検品でミスをほぼ確認できるようになった。大幅に不良は少なくなったのではないかと思われる。作業種としてこれ以外にM工業の部品の組付け、自主製品の縫製作業などをやりながら利用者、職員共々、努力してきたが、毎日の作業の流れにおいて利用者も自分の作業の分担を理解しており、大きなミスもなく安定して作業に取り組むことができた一年だったと思われる。

④菌床しいたけ栽培

菌床搬入後から温度、湿度管理は毎日行った。菌床については、昨年度同様に三重県か

ら仕入れた。品種も同様で、引き続き搬入回数を２回に減らすことで労力の軽減と経費削減を図っている。今年度は収穫量１００㎏を超える集中発生がなく、無駄にしいたけを市場に出荷したり、廃棄したりすることはなかった。雑菌混入を避けるため５月ＧＷ明けに菌床搬入をした。当初は順調にみえたが、残暑が厳しく例年よりも２週間ほど発生時期が遅れたのに加え、弱った菌床に雑菌が付着し腐敗するものを多く出してしまった。総収穫量としては約２，３００㎏と昨年度のより約３００㎏増えたものの、例年と比べるとかなり減っている。実績を少しでも取り戻すため営業も行ったが、中々販売には繋がらなかった。

普及啓発の一環という観点からも近隣の老人ホームや保育園などの地元での販売を継続している。“しいたけ直売所”ののぼりを温室前に立て始めて４年目になるが、地域への理解も少しずつ広がり近隣の方も多くおとずれてくれた。昨年度から新商品として販売を開始した「粉末しいたけ」はバザーや店舗から在庫の問い合わせもあり評判も上々であった。

（２） 委託作業科実績

①はじめに

委託作業科の体制になり８年目を迎え、利用者２７名、職員１０名（内非常勤職員６名）という体制で企業の下請け作業を中心に取り組んだ。作業内容は、委託作業全般・製パン・製菓作業ということで、委託作業は５社の業者から作業を受注し行っている。それぞれの業者からの作業の受注状況と利用者の作業能力に応じて、一人一人に合った作業を提供するように心掛けた。

②委託作業

委託作業では、５社の業者から自動車関連組み付け作業、部品のセット、プラスチック部品の組み付け作業、建築用部品の作成作業、ダンボールの緩衝材の組み立て、バーナー部品の加工等を行った。中でも昨年度の途中より取引を始めた自動車関連の業者からの委託作業は増加傾向にあり、安定した作業量、作業種の確保をすることが出来た。作業内容も簡単なものから高度なものまで様々あり、より多くの利用者の皆さんに作業を提供することができた。

一方で、住宅関連の業者についてはオリンピック需要とともに作業量や作業者なども増加してきており、安定した作業量を確保できるようになってきている。より生産性を高めていくのと伴に、質の向上にも努めていくことで受注量の増加、新作業の獲得を目指し取り組んでいる。

③製菓部門

令和元年度は利用者５名、職員２名を配置し、作業に取り組んだ。製パン作業では、法人内の食事提供を中心に、小学校の先生向けや企業での販売、デイサービスのおやつ、特別養護老人ホームでの販売を始めました。定期的に注文があり、安定して作業ができている。製菓では、従来の焼きドーナッツやクッキーの製造を行い、バザー等で販売した。

利用者、職員共に検便を実施し、作業中には白衣や帽子、マスクを必ず着用、手洗い

の徹底など衛生面にも十分な配慮をして作業に取り組んでいる。材料の計量から生地に照りをつけるための卵塗り、生地並べや焼成後の包装作業などを行う中で１つ１つ丁寧に取り組み、自信を持って提供できる製品作りを心がけている。

４．日常社会生活支援・健康管理支援

（１）日常社会生活支援

①手洗い

インフルエンザやノロウイルス等感染症予防のため、平成 28 年末、食堂洗面台・パン工房・各トイレにノータッチ式ディスペンサー（泡状石鹸液）を設置し、続いて平成 29 年秋には、新たに食堂洗面台にジェットタオルを設置した

昼食の手洗い時には職員がついて、「きちんと石鹸液で汚れを落とす」⇒「水で洗い流す」⇒「綺麗なハンカチ等で拭き取る」あるいは「ジェットタオルで乾かす」⇒「消毒液を手指に擦り込む」という一連の流れがスムーズに行う事が出来るよう支援した。

毎日の繰り返しで、少しずつ定着しつつあるが、まだまだ職員の声かけ、見守りが必要である。

②歯磨き・洗面

昼食後には利用者自らが食堂洗面台で歯磨きを行い、その後当番職員が上手に磨くことが出来ない箇所を磨き直したり、口の周りの清潔を保持している。一日一回の支援ではあるが、習慣付くことで家庭でも行う事が出来るようになったという声も聞く。また年一回の歯科健診時にも「綺麗に磨く事ができている。」と褒められる利用者も多くなってきた。今後も継続する事で少しでも虫歯・歯肉炎予防に役立てたいと考えている。

③体力作り

引き続きルームランナー、ルームマーチ、自転車漕ぎ、イージーウォーク（足首屈伸マシーン）、腹筋マシーン、足湯、肩マッサージ、フットマッサージ、バランスボール、レッグマシーンを使い、毎日午前中は体力活動を実施している。しかし、使用している器具で耐用年数を超えてきている物も多く、修理が効かないものは新たに購入しながら進めている。

散歩については短距離（1.1ｋ）、中距離（1.6ｋ）、長距離（3,1ｋ）と本人の体力に合わせて 3 コースを設定した。ほぼ一年を通して実施することが出来たが、夏の暑い時期には「出発前に水分補給」「首には保冷剤入りタオル・帽子着用」「途中で塩分チャージ」「帰所後にも水分補給（ポカリ）」で熱中症対策を行った。また、酷暑により外の散歩に行けない時には、御津町体育館に出向き室内での散歩を行うなどの対策をした。

雨天時に行うリズム体操は、「水戸黄門のテーマ」や「めだかの兄妹」等ゆったりした曲に加え、蒲郡市が推奨する「ほほえみ体操」も取り入れ体の曲げ伸ばしを行っている。「エビカニクス」や「パプリカ」ではアップテンポな曲と楽しい振り付けが好評で、年末の忘年会で踊りを披露し大いに盛り上がった。

平成２３年に開始して以来、毎年少しずつ活動に参加する人が増えてきており、近年は

何らかの形でほぼ全員が参加できるようになった。
　減量と体力向上の目的で開始した活動で、開始当初のような目に見える減量は少なくなってきたが、それ以上に情緒の安定やストレス発散に大いに役立っているように思える。
　今後は更に専門的な知識を身につけ、利用者・保護者のニーズに応えられるような活動を続けていきたいと思っている。

（２）健康管理支援

定期健診、年２回実施
身体測定、年３回実施
歯科検診、年１回実施
健康チェック、毎朝の検温実施
給食、健康維持及び生活習慣病防止の献立作成
　　嗜好調査を３月に実施

５．環境整備・余暇活動

（１）環境整備

環境整備活動、毎月実施
清掃奉仕、年２回実施、６月・１２月
衛生対策、玄関、食堂、トイレに消毒液設置

（２）余暇活動

土曜タイム、自治会活動、科別リフレッシュタイムの実施

６．日中一時支援事業(別紙１)

７．苦情解決・虐待防止

（１）苦情解決

苦情としての受付はなかった。
意見要望等が言いやすい環境作りに努め、速やかに対応できるよう職員会議等で職員に周知した。

（２）虐待防止

虐待事案の受付はなかった。
毎月、サービス提供点検を実施し職員会議で検討すると共に、虐待防止の関係する研修に参加し虐待防止に努めた。

８．令和元年度作業実績(別紙２)

９．令和元年度行事実績(別紙３)

（別紙１）

日　中　一　時　支　援　事　業　報　告

１．はじめに

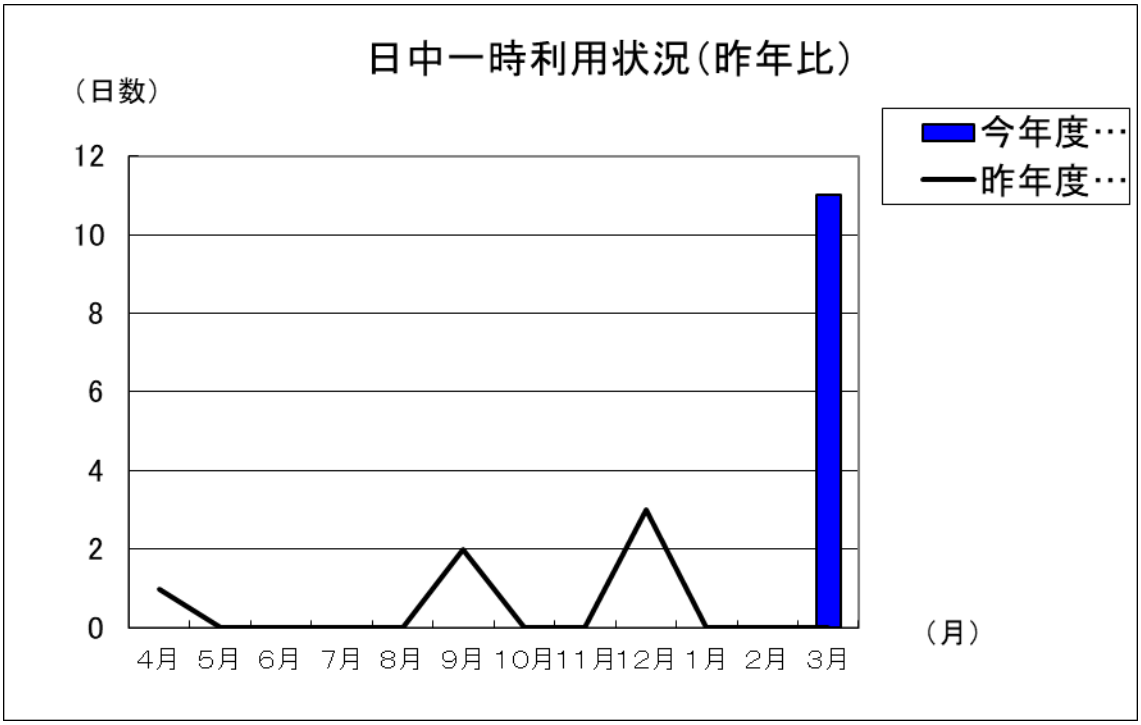
　１８年１０月からスタートした市町村地域生活支援事業の日中一時支援事業〔蒲郡市・豊川市〕は１３年目を迎えた。

２．利用状況

　契約人数：１名

　延べ利用人数：１１名

　今年度の延べ利用人数は１１名。利用者さんの体調面や通院の頻度等の理由で日中一時を希望しているがなかなか利用できない日が多くなっているが、利用した際は楽しく過ごすことが出来ているようである。今後も様々なニーズに応えるべく、取り組んでいきたい。



３．今後について

　今後も今年度同様、地域にて生活している障がい者の日中活動の場として作業や体力活動等を通した様々な支援を行っていければと考えている。

（別紙３）

令和元年度行事実績

５／１３	春の定期健診
２１	全体レク（掛川花鳥園）
２９	地域清掃奉仕（わくわくワーク大塚周辺・おおつか児童館等）
７／１１	歯科健診
２８	利用者賞与支給
８／１１	利用者夏期休暇（～１５）
９／１９	一泊旅行（京都方面・太秦映画村～２０）
２９	地域清掃奉仕（わくわくワーク大塚周辺・おおつか児童館等）
１０／１４	くすの木福祉事業会３施設合同レク
２１	秋の定期健診
１１／　９	地域交流くすの木福祉まつり
１２／２０	蒲郡市（市長、市議会議長、社会福祉協議会長）歳末訪問
１４	利用者賞与支給
２５	クリスマス会
２７	忘年会（サンヒルズ三河湾）
２８	もちつき会・仕事納め
２９	利用者冬期休暇（～１／５）
１／　６	仕事始め
２７	初詣
２／　３	節分・豆まき
２０	歯科衛生指導（蒲郡市保健センター）
３／２７	花見（ドライブ）
３１	利用者賞与支給

※　毎月１回・・・・・・・工賃支給、誕生会、環境整備デー
　　高血圧者の血圧測定

※　偶数月・・・・・・・・防災訓練

※　４ヶ月毎・・・・・・・身体測定

（別紙２）

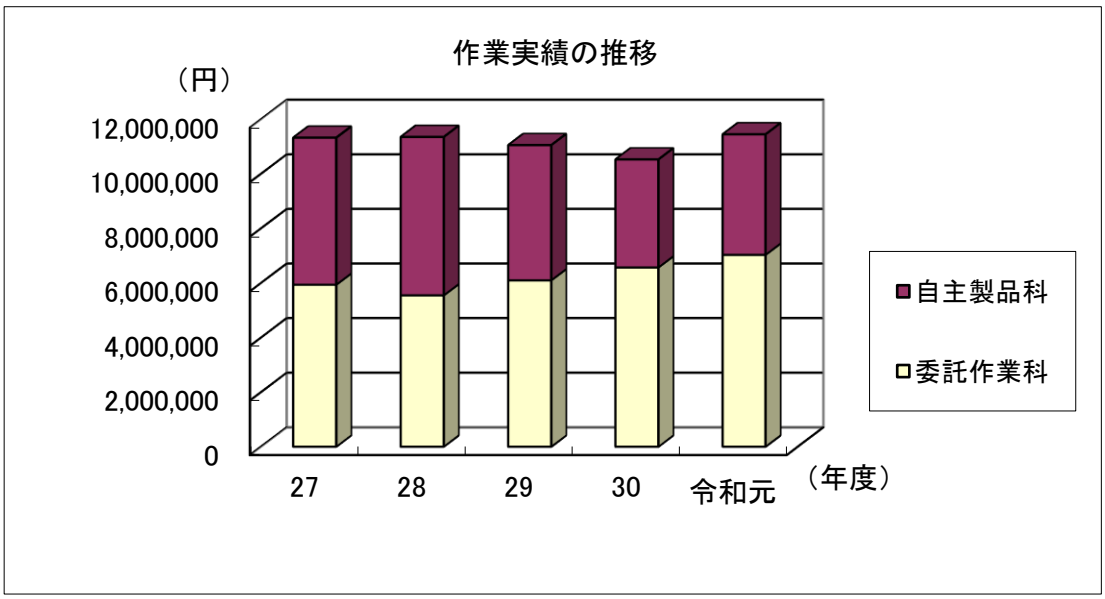
令和元年度作業実績

１．実　　績

（単位:円）

	自主製品科	委託作業科	計	経費	工賃
4	14, 400	169, 409	183, 809	207, 335	305, 156
5	181, 677	335, 445	517, 122	274, 224	305, 247
6	128, 948	454, 602	583, 550	1, 494, 434	610, 579
7	132, 370	504, 350	636, 720	259, 931	304, 917
8	86, 950	871, 851	958, 801	549, 994	305, 066
9	83, 300	458, 667	541, 967	277, 752	304, 888
10	147, 940	673, 454	821, 394	295, 159	305, 246
11	938, 215	788, 672	1, 726, 887	275, 460	305, 219
12	959, 844	599, 981	1, 559, 825	331, 842	757, 272
1	494, 190	572, 999	1, 067, 189	744, 144	305, 729
2	666, 082	818, 170	1, 484, 252	626, 450	305, 188
3	319, 389	434, 009	753, 398	561, 988	458, 088
決算見込	262, 500	348, 845	611, 345	595, 558	354, 227
合計	4, 415, 805	7, 030, 454	11, 446, 259	6, 494, 271	4, 926, 822
月平均	367, 984	585, 871	953, 855	541, 189	410, 569

２．作業実績の推移



◎ 年度別実績

（単位:円）

	27	28	29	30	令和元
自主製品科	5, 387, 337	5, 804, 646	4, 953, 057	3, 958, 067	4, 415, 805
委託作業科	5, 935, 835	5, 546, 338	6, 096, 727	6, 567, 413	7, 030, 454
合　　計	11, 323, 172	11, 350, 984	11, 049, 784	10, 525, 480	11, 446, 259

令和元年度　社会福祉法人くすの木福祉事業会　共同生活援助事業所
（ひめはる・かるみあ・はちまん）事業報告

1．概要

令和元年度は、4 月 1 日にグループホーム「はちまん」が開所し、利用者定員 49 名で事業を展開した。「はちまん」の開所により、「ひめはる」「あざれあ」の男女混成ホームの解消や、車いすやシルバーカーを使用している利用者の受入れを実施することができた。

また、6 月よりひめはる事業所の人員配置区分を 6：1 から 5：1 に変更し、利用者への支援を手厚く実施することができた。

2．入居者の状況(R2.3.31 現在)

事業所名	ホーム名(住居名)	開設年度	住　　所	定員	男性	女性	備考
ひめはる	ひめはる	H23	大塚町後広畑 25 番地 4	10	10	0	
	あざれあ	H19	大塚町野添 105 番地 1	5	0	5	
	ふれんず	H30	大塚町後広畑 25 番地 10	5	5	0	
かるみあ	さつき荘	H 8	大塚町上中島 32 番地 2	5	5	0	
	かるみあ (2 ユニット)	H25	大塚町後広畑 25 番地 4	5	0	5	かるみあⅠ
				5	5	0	かるみあⅡ
	あいりす	H30	御津町御馬野添 149 番地	4	0	4	
はちまん	はちまん (2 ユニット)	H31	大塚町八幡 1 番地 1	5	5	0	はちまんⅠ
				5	0	5	はちまんⅡ
			総　数	49	30	19	

3．利用者の日中活動状況(R2.3.31 現在)

事業所名	ホーム名	サポートくすの木	わくわくワーク大塚	一般就労
ひめはる	ひめはる	2	7	1
	あざれあ	2	2	1
	ふれんず	3	2	0
かるみあ	さつき荘	4	1	0
	かるみあⅠ	2	3	0
	かるみあⅡ	2	3	0
あいりす	あいりす	3	0	0
	合　計	18	18	2

4．その他の事業

利用者支援としては、外出レク(さつき荘)や食事会（ひめはる、ふれんず、はちまん）を実施している。職員のスキルアップとして、法人内で実施された虐待防止研修などの各種研修や AED、感染症対策などの講習に参加にした。

また、虐待防止委員会の開催、年２回の消防訓練を実施、利用者支援の向上に努めた。

令和元年度　障害者サポートセンターすてっぷ事業報告

1.　概要

令和元年度はサービス等利用計画更新者が少ない年度であるため、計画作成数は平成30年度の半数ほどになっているが、モニタリング報告書数や実際の支援をした回数は平成30年度よりも多くなっている。これは、計画作成やモニタリングの月に関わらず、相談支援の必要な利用者が増加していることを表している。つまり、既存のサービス利用だけでは利用者のニーズを充足できない利用者が増加しているということである。この傾向は今後も続いていくと思われる。

また、利用者の高齢化により、介護保険分野との連携の必要性も強く感じた年度であった。

2.　相談支援の状況

【相談受付数】※(　)内は平成30年度実績

	実人員	身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	その他
人数	**132(128)**	4(4)	113(110)	6(4)	7(7)	1(3)

【支援方法】※(　)内は平成30年度実績

	訪問	来所	電話等	個別支援会議	その他	**合計**
相談数	571(478)	74(62)	460(402)	48(79)	521(657)	**1688(1528)**

☆10-5.令和元年度GH事業報告.pdf

【支援内容】※(　)内は平成30年度実績

	福祉サービス利用	障害や病状理解	健康医療	不安解消情緒安定	保育教育	家庭関係人間関係	家計経済
件数	1112	5	743	347	21	328	81

	生活技術	就労	社会参加余暇活動	権利擁護	その他	**合計**
件数	268	132	673	19	129	**3858(2295)**

【サービス等利用計画およびモニタリング報告書作成数】※(　)内は平成30年度実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
計画数	7	2	0	3	2	7	5	5	2
モニタリング数	20	20	24	18	29	22	18	17	19

	1月	2月	3月	**合計**

計画数	1	3	4	**41(84)**
モニタリング数	18	34	22	**264(196)**

※令和2年9月に地域移行の実績1件あり。